

ウエスギ

ナゲット加工、アルミ対応

混合被覆線を機械分離

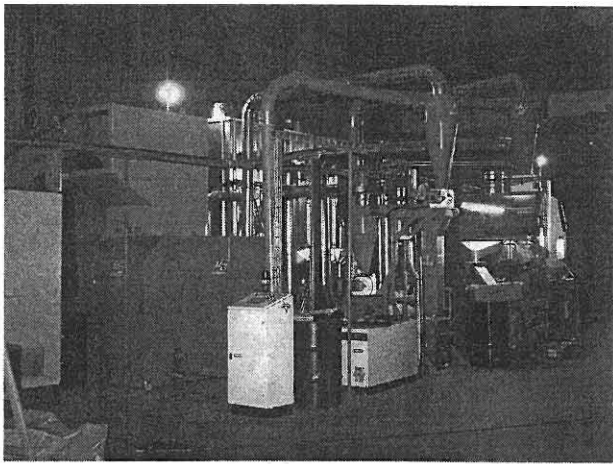
【四日市】総合リサイクル企業のウエスギ(本社三重県四日市市、上杉圭司社長)は、銅ナゲット大手事業者として全国に先駆け、アルミが含まれた被覆線のナゲット加工を開始する。先月中旬に設備を導入し、試験稼働を経て年明けから本格操業を行う。これによりアルミと銅が混ざった被覆線を、機械加工で再資源化することが可能となり、国内資源循環の加速が期待できる。

1億円投じ新設備 年明け本操業

ナゲット加工とは、被覆線を粉砕、加工し、銅や樹脂の再資源化を図るもの。だが、銅とアルミが混入した被覆線のリサイクル技術は確立されておらず、これまで人件費が安い海外に輸出され、手分別で処理されることが一般的だった。

だが近年、アルミを導体とした自動車用ワイヤハーネスが登場するなど、被覆線のアルミ化が加速。国内資源循環と機密保持の双方から、国内リサイクルの実現を求める声が高まってきていた。そのためナゲット加工の国内大手事業者である同

社は、アルミ被覆線加工への進出を決めた。このほど導入したナゲット加工機はイタリア製で、付帯設備を加えた投資額は約1億円。空気選別式で、比重により銅とアルミを分別する。加工能力は1時間当たり1クワストン。この新設備に同



導入したナゲット加工機

社が持つノウハウを加えることで、ほぼ完全に銅とアルミを分離できる。

アルミ被覆線の機械加工方法を確立することで、国内での被覆線リサイクルが進展し、

これまで輸出に回っていた被覆線の国内回帰が期待できる。同社は来春をめどに、ナゲット加工量を現状比倍増の約300トンレベルに引き上げていく方針だ。